

## 瀬戸酒造店が醸造再開

オリエンタルコンサルタンツ

### 地域活性化へ醸造所整備

オリエンタルコンサルタンツの子会社である瀬戸酒造店（神奈川県開成町）は4日、醸造所の完成と醸造再開を祝い、関係者を招いて蔵開きを執り行った。

瀬戸酒造店は、慶応元



醸造所

年に創業した酒蔵。80年に自家醸造を断念していたが、オリエンタルコンサルタンツの地域活性化事業として、17年4月に同社の100%子会社となり、醸造所と井戸を新たに整備し、自家醸造を再開することとなった。

今後、瀬戸酒造店は、開成町北部地域の自然などを活かし、伝統の技と柔軟な発想で日本酒の可能性を拓いていく。6月には、伝統の酒「酒田錦」、いろいろな発酵しみを提案する酒「セトイチ」、あじさいの花酵母を使った地域の酒「あしがり郷」の3種類を販売する予定だ。

また、オリエンタルコンサルタンツは、神奈川県未病改善プロジェクトとして、開成町で指定管理者となっている「あしがり郷瀬戸屋敷」をフィールドとして、東京農業大学醸造科学科と連携して「発酵」をテーマとした「食」と「社会参加」

による未病の改善の取組みである「はっこう大作戦」を進めている。

今後は、開成町の「瀬戸酒造店」と「あしがり郷瀬戸屋敷」を拠点に、

地域の飲食店、住民と協働し、発酵をテーマとした食品開発に取り組み、新たな地域ブランドをつくり、開成町の地域活性化に取り組んでいく。